

1. 基本情報

- (1) 国名：ブルキナファソ
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ワガドゥグ市（人口約 182 万人）
- (3) 案件名：ワガドゥグ東南部バイパス道路改善計画（Projet de Renforcement de la Rocade Sud-Est du Boulevard de la Jeunesse à Ouagadougou）
- (4) 事業の要約：本事業はブルキナファソの首都ワガドゥグにおいて、バイパス道路の東南部区間の全面改修及びバイクレーン等の新設を行うことにより、都市交通及び域内物流のネットワークの改善を図り、もって域内経済統合の促進に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国におけるインフラセクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

西アフリカに位置するブルキナファソは、人口約 1,700 万人、GNI 750 USD（出典：世銀、2013 年）で、6 か国と国境を接する内陸国である。同国の首都ワガドゥグは、コートジボワール、ガーナ、トーゴ等の沿岸国とニジェール、マリ等の内陸国を繋ぐ物流の結節点として機能しており、域内 8 か国が加盟する西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）の本部を擁している。同国経済は金及び綿花に加えて対日輸出第 2 位のゴマの輸出を中心に堅調な成長を遂げており（GDP 実質成長率：5.5%、2000 年-2010 年平均、出典：世銀）、過去 10 年間で輸出・輸入額はそれぞれ約 9 倍、約 4 倍（2003 年-2013 年、出典：世銀）に増加している。同国及び周辺内陸国ではこれら輸出入を支える物流の 80%以上を道路輸送に依存していることから、内陸国と沿岸国を結ぶ国際回廊の整備が、同国を含む周辺地域の最優先開発課題の一つとなっている。かかる背景の下、我が国は、TICAD V で支援を表明した「5 大成長回廊整備」及び「10 か所の戦略的マスタープラン策定」の一つとして、ワガドゥグと沿岸国を繋ぐ「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン（以下「西アフリカ成長リング」という。）」に対する協力を実施している。

周辺 6 カ国の物流の結節点に位置するワガドゥグ市は人口増加を背景に地理的にも拡大しており、大型貨物車両の市中心部への侵入回避を目的として、1990 年に、ワガドゥグ市外縁部に片側 2 車線の環状バイパス道路が整備された。このうち、本事業の対象区間である東南部バイパス道路（6.5 km）上にはドライポートが存在し、ワガドゥグを起点とする国際回廊のうち最も交通量の多いトーゴのロメ港や内陸国ニジェールに至る回廊や、ガーナの Tema 港を結ぶ回廊の起点となっていることから、環状道路の中でも最も交通の集中する区間となっている。当該区間の交通量は 2007 年には約 13,000 台/日であったが、2014 年には 22,000 台/日に増加することが予測されている（出典：ブルキナファソ政府作成報告書、2011 年）。

しかしながら、本事業の対象道路は、1990 年の完成以来、全面的な改修がなされたことはなく、全区間で表層の損傷が見られるほか、一部区間では路肩の損傷により 2 車線での通行が不可能となっており、円滑な交通に支障を来している。さらに、生活上の利用を目的とする一般車両や二輪車も増加しており、大型車両から二輪車までが混在して通行していることから、バイパス道路としての機能を十分に発揮できておらず、交通事故のリスクも高まっている。

かかる状況を踏まえ、ブルキナファソ政府は「運輸セクター戦略（2011～2025 年）」において、バイパス整備等を通じた大都市における交通事情の改善を掲げており、本事業の対象道路についても部分的な再舗装などの補修を行ってきたが、根本的な解決には至っていない。

本事業は、損傷した既存道路を全面改修するとともに、新たにバイクレーン等を整備することにより、都市交通及び域内物流のネットワークの改善を図るものである。

(2) 広域インフラセクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

対ブルキナファソ国別援助方針における重点分野としては「域内経済統合の促進」が定められ、「国境通関の効率化や広域インフラの整備など、域内経済統合の促進に資する支援を検討していく」とされており、対ブルキナファソ JICA 国別分析ペーパー（JCAP）では「域内経済統合」を重点課題と分析していることから、本事業はこれら分析及び方針に合致する。

(3) 他の援助機関の対応

アフリカ開発銀行は本事業の対象区間と隣接する南西の区間（6.3 km）を拡幅・改修している。

(4) 本事業を実施する意義

本事業は、日本政府が TICADV で表明した戦略的マスタープランの一つである「西アフリカ成長リング」が対象とする国際回廊の機能強化を図るものであり、同じく TICADV で日本政府が表明した 5 大成長回廊整備に直結する協力であることから、日本政府の公約達成に貢献する他、先方政府の政策にも合致しており、本事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業はブルキナファソの首都ワガドゥグにおいて、バイパス道路の東南部区間の全面改修及びバイクレーン等の新設を行うことにより、都市交通及び域内物流のネットワークの改善を図り、もって域内経済統合の促進に寄与するもの。

② 事業内容

i. 施設・機材等の内容

道路の改修：片側 2 車線 × 2 の約 18m × 6.5km、バイクレーンの新設：片側 1 車線 × 2 の約 6m × 6.5km、サービス道路の新設：片側 1 車線 × 2 の約 12m × 6.5km、排水側溝の新設：2 × 6,500m=13,000m、道路灯の新設：650 灯、縁石新設：10 × 6,500m=65,000m

ii. コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、施工監理等。

ソフトコンポーネントについては協力準備調査にて確認する。

iii. 調達・施工方法：協力準備調査にて確認する。

③ 他の JICA 事業との関係：本事業は、「西アフリカ成長リング」で対象とする回廊の起点をなしており、対トーゴ「カラ橋及びクモング橋建設計画」等の「西アフリカ成長リング」上の他の回廊整備案件と同時期に本事業を実施することで、域内の貿易円滑化に相乗的な効果が見込まれる。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制

社会基盤・僻地開発・運輸省（Ministère des Infrastructures, du Désenclavement et des Transports）

② 他機関との連携・役割分担：特になし。

③ 運営／維持管理体制：回廊の維持管理は社会基盤・僻地開発・運輸省道路維持局が行うが、清掃や軽微な修繕など日常的なメンテナンスはワガドゥグ市が実施する。本事業実施後の体制は協力準備調査にて確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリ分類の根拠：

本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

- (4) 横断的事項：本事業は気候変動による影響への対応につながる気候変動の適応を副次的目的とする事業と位置付けられる可能性がある。協力準備調査にて確認する。
- (5) ジェンダー分類：分類未定（分類理由：ジェンダー分類を判断し得る情報が現時点ではないため。協力準備調査にて確認。）
- (6) その他特記事項：特になし。

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

「マダガスカル国道7号線バイパス建設計画」（評価年度2012年度）の事後評価等では、バイパス道路の開通に伴って渋滞の緩和等の効果発現が認められた一方、交通事故の増加等の負の側面も確認された。主要因はドライバーや歩行者の交通安全に関する認識の欠如であるため、運転手や住民に対する交通安全教育の実施及び法令違反者に対する取締り強化により、負のインパクトを最小限に留める必要があるとされている。

本事業においても、国際物流を担う大型車両を含め、通行量の増加や平均速度の上昇が見込まれる。については、協力準備調査で交通安全及び取締状況を確認すると共に施設設計に際しては交通安全に十分配慮する。また、調査等の各段階において、交通安全教育や違反者の取締り強化について、ブルキナファソ政府に対して必要な対策を講じるように申し入れる。

以 上

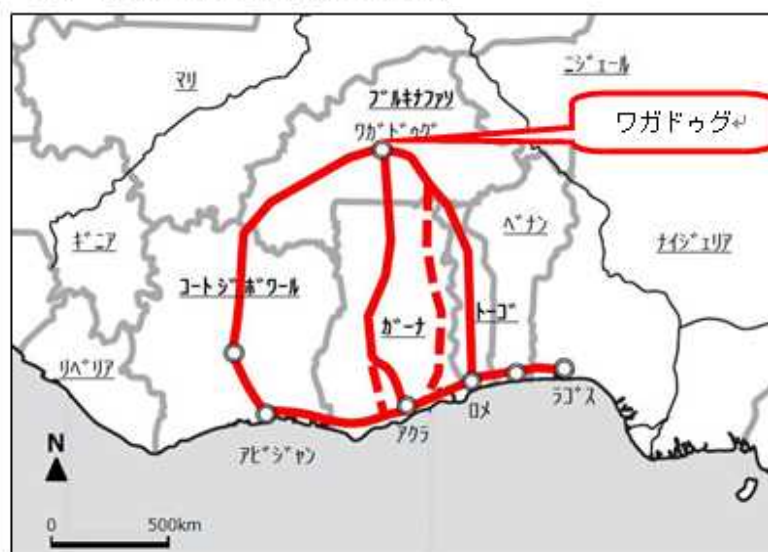
〔別添資料〕地図

〔別添資料〕 ブルキナファソ国ワガドゥグ東南部バイパス道路改善計画 地図

アフリカ大陸地図



ブルキナファソ及び「成長リング」地図



ワガドゥグ市地図

